

公益社団法人 私立大学情報教育協会
第2回事業普及委員会議事概要

I. 日時 平成26年6月27日(金) 18:00~20:30
場所 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局会議室

II. 出席者 向殿担当理事、今泉委員長、木村委員、高橋委員、宮脇委員、尾崎アドバイザー
(事務局 井端事務局長、平田職員)

III. 検討事項

機関誌2014年度No.2(9月号)の原稿確認、投稿原稿の確認と取扱い、機関誌2014年度No.4の企画、「教育学修支援への取り組み」の機関誌での取り上げ方・方針などについて主に検討した。

1. 機関誌2014年度No.2(9月号)の原稿確認

掲載予定の原稿を確認し、委員からの意見に基づき以下のように対応することにした。

(1) 巻頭言

一部分の文言修正と削除を筆者の相談の上、行うことにした。

例：役所→市役所 役所の要求するものを→削除する すると→これに伴い

(2) 特集：アクティブ・ラーニング実質化に向けて

① 長崎大学

主に、重複文章が一部分あること、TA、SAが最初に出てくる箇所に説明を入れる(移動する)こと、「6. 課題・改善点」がわかりにくいため、小見出しを入れてまとめること、など筆者に確認を求め、修正を依頼することにした。

② 同志社大学

タイトルのPBLの正式な表記は入れないこと、グラフがなくてもよいと思われるため、分量の削減が必要な場合は、グラフを削除し調整することにし、図5、図6は削除する分、図6の内容を文章で説明いただくよう筆者に依頼することにした。

③ 関西大学

引用、参考文献は、本文に番号付けで編集すること、写真のキャプション入れ、人物はぼかしを入れることを確認し、筆者に確認しながら事務局で対応することにした。

(3) 教育学修支援への取り組み

タイトルは取り組み内容がわかりやすいよう、「千葉工業大学のICTを利用した教育改革の取り組み」から、「事前事後学修の徹底を目指したICT環境の整備」の修正案を筆者に提示して検討いただき、iPad miniの導入理由も加筆いただくことにした。

2. 投稿の取扱い

2件の投稿があったが、1件目は社会連携という興味のもてるテーマであるものの、授業の具体的な実践例が本文からは読み取れないため、今回は見送ることにした。また、2件目は、情報リテラシー教育を中心としたキャリア教育であるが、情報リテラシー中心に書かれていないことから掲載は見送ることにした。

3. 機関誌2014年度No.4(3月号)の企画

(1) 特集

MOOC以外にもネット配信によるオンライン学修が始まっているので、ネットを使った教育の紹介をすると話題提供にはなるのではないかと意見もあったが、職員向けの話題も提供することを重視し、「サイバー攻撃への防衛のための事例」として、広島県庁でのメール添付へのサイバー攻撃に対する防御訓練の実践例など、サイバー攻撃を自衛するための個々のレベルでの注意点を紹介することにした。

(2) 海外ニュース

Educauseの刊行物を中心に事務局から提案されたいくつかのテーマについて検討した結果、「Learning and the Massive Open Online Course」を翻訳分科会で和訳したものを掲載することにした。

4. 「教育学修支援への取り組み」（大学におけるICT活用事例）について

ICT活用を中心とした教育学修の取り組みを大学組織として紹介することは、大学の許可が得られない場合も多くあり難しいことが原稿依頼の際にわかってきたため、広範囲は取り組みではなく、テーマを絞って依頼するなど、今後の方針について検討した。

その結果、以下のような意見があり、慎重に検討していくべきとのことから、事務局案を作った上で今後の委員会で検討することにした。

- ・テーマを絞ってもよいが、特集との違いはどうするのか。
- ・授業の一コマを紹介するのも大学としてでよいのか。
- ・文科系では情報教育が重視されていないので、本協会に普及の支援をしてほしいと事業活動報告交流会で意見があった。そこで、機関誌では大学紹介ではなく、テーマごとの取り組みがよいのではないか。情報教育もその一つである。
- ・テーマをどうすればよいか。
- ・読者にとっては、ヒントとなるものなので、全学、学部での取り組みである必要はないのではないか。

5. 「人材育成のための授業紹介」（分野別のICT活用事例）について

依頼先の候補探しについては、授業改善に関する調査回答者の情報以外に、本協会の情報教育委員会で分野別の情報活用教育を調査しているので、その結果からよい事例を紹介することが可能と事務局より提案があり、今後、情報活用教育の調査結果も利用していくことを確認した。